平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人　清浄会		
事業所名	グループホーム　なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507－1		
自己評価作成日	平成25年10月26日	評価結果確定日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設11年を迎え、理念である「みんなで　その人らしさを大切に　笑顔で寄り添う」をもとに利用者様に接している。自然豊かな環境の中の散歩や、畑仕事や、花壇の手入れ、ホーム内では食事の支度や配膳、片付け、清掃活動、洗濯干し、洗濯もの畳みなど生活リハビリを中心に役割を持っていただいたり、趣味の絵画、書道将棋、貼り絵など楽しまれている。又、毎朝の体操や、音楽クラブの季節に合った歌の合唱、同法人でのカラオケや、誕生会、民謡教室など、通リハの方達と一緒に行い、地域の方との再会や、ご主人がホームに入られ奥さまが通リハに通われ、再会を毎回楽しみにされている。又、外出行事では、馴染みの場所や、季節を感じられる場所へ、又、買い物行事なども行い地域、社会との関わりを多く持もち、地域医療との連携も取れ情報交換も密に行っている。

隣接する介護保険施設や地域の系列医療機関と連携しながら、理念に掲げた「その人らしさ」の具現化に全職員が一丸となって取り組んでいる。終末期の入居者のベットを見守り易い居室の中央に移動する提案もあったが、入居者に馴染みのある現状を維持している。夜間頻尿の入居者を手引きで毎回トイレに誘導したり、日中は布パンツで過ごしてもらうなど、入居者の意思をその人らしいと捉えたケアが日々実践されている。また、「家に帰りたい」と話す入居者の対応を全職員が統一し、職員の傍で安心してまどろむ入居者や、好きな貼り絵を励むことで落ち着きを取り戻す入居者もある。法人やホーム内の様々な委員会に全職員が所属し、法人運営や地域の関わりで経験やスキルを培い人材を育成し、家族交流会や運営推進会議を通じて、家族や地域の理解や協力を得ながら、地域密着型サービスとして地域への寄与が期待されるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　1号館／なびき

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で唱和し、お一人お一人のその人らしさを大切に笑顔で対応できるように意識して、接している。	理念に「その人らしい」生活の支援を掲げ、全職員で実践に取り組んでいる。日々の関わりから何がその人らしいかを模索しながら、調査当日も笑顔で入居者に寄り添う職員の姿があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設への、通リハの方と合同のカラオケや、民謡教室の参加や、ボランティアの先生による書道教室、地域での行事への出展や参加、散歩、地域企業や、高校の研修などの受け入れなど地域との交流を行っている。	地域行事のどんど焼きやなびきホールでのイベントに参加したり、ホームの庭で盆踊りは見ることはできなかったが、地域の方からのイベント情報も多く、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設での認知症の研修を担当したり、認知症サポーターの養成などに参加し支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、利用者、家族、地域の民生委員、警察、市役所、他施設の方など参加し、行事の説明や取り組み、事故報告や事故防止など行い、参加者の意見や情報を参考にしている。	運営推進会議は、家族が参加できる日時を優先した開催が継続している。会議では、重度化している入居者の状況や転倒した入居者のいきさつについて報告している。参加者から地域のイベントの情報を得たり、市担当者には家族会交流会の講師を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加や、GH宮若での市との連携や、ふるさと祭りなどの参加などを行い協力関係を築いている。	1事業所としてだけではなく、加入している地域同業者協議会のGHみやわかの活動を通じて、市担当者と情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に身体拘束しないケアの取り組みを行っている。苑内外の研修の参加、伝達講習を行ったり、朝礼でコンプライアンスの唱和など行い確認している。玄関は外出傾向の方の対応としてセンサーを設置している。夜間帯は施錠している。	法人全体で身体拘束しないケアに取り組み、ホームでは、朝礼時にコンプライアンスルールを唱和している。なかでも、言葉による拘束について意識づけを行っている。玄関にセンサーを設置し、職員間で声を掛け合いながら、外出傾向のある入居者の見守りや外出に同行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修に参加したり、ミーティングを行ったり、朝礼時、コンプライアンスルールを唱和し確認している。		

福岡県　グループホーム　なびき　　平成２５年12月4日

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修に参加したり、ミーティングを行ったりしている。家族では、家族会での説明や、必要時などの支援を行っている。	今月開催する家族交流会で、市職員に講師をお願いして、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容や違いを学ぶ予定である。成年後見制度の情報を提供した入居者もあるが、家族が他県のため、関わりはない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族全体の家族会の開催や、運営推進会議や、面会時等に相談や意見を受けることがあり反映している。	今月家族交流会を開催予定で、家族レクリエーションも企画され、家族が意見を表出する機会や関係づくりに努めている。また、運営推進会議の出席をお願いしている家族代表の都合に合わせて、開催日を決めるなど、家族の意見を重視した運営をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設の代表者会議や、連携会議、ホーム内でのミーティングを行い反映している。	些細なことでも全職員で話し合いをしている。毎月のミーティングで出た意見で、浴室の更衣用のイスの配置変更が取り入れられ安全と動線の改善につながった経緯がある。全職員が、法人やホーム内の様々な委員会に所属し、運営にかかわりながら、意見や提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や、資格修得による昇給もあり、各自が向上心を持って働けるよう環境を整えている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に関して、性別、年齢は関係なく行っている。又、事業所で働く職員も社会参加など出来るよう配慮しており、60歳が定年だが、本人が望むのあれば延長している。	ハローワークや口コミで職員を採用したり、退職した職員が就労し易い勤務体制を提案し、培ったスキルを発揮できる職場づくりをしている。、ホーム勤務を希望し他の部署から異動した職員もいる。研修会参加や資格取得を支援している。昼休み時間の取り方について、機会ある毎に話し合っているが、職員数や場所の現状から、検討課題となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内研修や、外部研修に参加し、学ぶ機会を設け人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人内に接遇委員会が設けられ、人権研修を年間研修に組み入れている。外部研修にも職員の参加を促し、事業所内で伝達講習を実施している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保している。又、働きながら技術向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH宮若での交流や、研修参加、相互訪問や、併設施設との職員交流などを通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様や家族との面談時に家族の要望やニーズに耳を傾けしっかりコミュニケーションをとり、信頼関係を築くよう努めている。センター方式を取り入れている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での面接時や、契約説明時など、家族が困っている事、不安な事要望などお聞きしたり、面会時なども日頃の様子をお話しながら関係作りに努めて行る。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前での面接時、契約説明時や、診療情報なども参考に必要な医療や精神面での必要なサービスを見極め支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共にに食事し、一緒に暮らす家族のような関係であり、お互いに癒されたり、励まされたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は情報を共有しながら本人様を共に支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を利用しながら、馴染みの場所を外出行事に計画したり、家族の協力を得ながら、食事や、パーマ屋さんに行かれたりしている。	入居者の約8割が、隣接する介護施設やデイケアの利用から入居に至っているため、合同の行事の参加は馴染みの人に会える場になっている。また、地域のイベントの参加や名所の地蔵様参拝を継続している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で対話されたり、支えあう場面の支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退所された時など、退所後も面会に行き、本人様や、家族との関係を続けながら今後の相談など乗りながら支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画書に、希望欄と用い本人又は家族に聞き取りを行う。また、希望が聞き取れないないケースは、アセスメントから導き出す。	本人の思いを大切にするため、職員がその人らしさをいつも話し合っている。職員を担当制にして、入居者の意向の把握に努めたり、家族会や家族の訪問時に家族から情報を得ている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を用いて家族に聞き取りを行う		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	6ヶ月毎又は、状況に応じてアセスメントで「出来る」「出来ない」を把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファの時間が持てないので、職員との話し合い、家族面会時に状況を伝え今後の方向性などの意見を伺いながらプランに反映させている。	転倒し左上腕を固定している入居者について、その時々の思いを聞き取り、介護計画を作成している。安全に安心してホームで暮らし続けるために、適切な医療受診の支援や帰宅願望時の対応を職員間で統一している。	実施しているケア内容をモニタリングされることや、モニタリング時の気づきを話し合うことで、さらなるチームケアを期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列を基本にしてケアプランに関しての内容は目につきやすいよう青色記入し情報伝達・統一に努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や、病院受診、併設施設の管理栄養士や、リハビリのOTセラピストからの助言などいただきながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や、病院受診、地域で行われる展示会に作品を展示し見学したり、地域の小学校や、企業の方、高校生など交流を行っいる。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関連施設でもある病院の訪問診療を受けている。緊急時なども受け入れてもらえるよう連携をとっている。	地域のある系列の医療機関がかかりつけ医になっている。歯科受診は隣接の介護施設の歯科訪問診療に合わせて入居者も診療を受けている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化に応じて看護師や訪問診療の訪問看護師等に相談し、受診が必要な時はすぐに受診している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し継続したケアが出来るよう努めている。又、入院、退院など病院関係者と情報や相談に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域医療とも連携をとり支援している。	整備した医療連携方針を入居時に説明している。重度化した入居者もあり、系列の医療機関に状態を随時報告している。経口摂取ができず、意識の低下や1日の尿量が500ml以下を終末期の目安とすることを訪問看護から提案されている。	看取りの方針である可能な限りホームで過ごしていただくためにも、提案された目安の検討や様式の整備を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修での緊急時の対応や、マニュアルを作成している。防火委員会を通じて、消防署からの救急処置の訓練を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員会を中心に消防署と連携した消防訓練や、緊急連絡網の訓練を実施している。併設の施設の職員も参加して実地している。	隣接する介護施設と連携しながら、防火対策に取り組んでいる。夜間を想定した訓練も実施している。飲料水、ビスケット、乾パン等を約2日備蓄している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝グループホームの理念や、人権尊重の唱和を行い、意識付けを行っている。	終末期の入居者のベットを見守り易い居室の中央に移動する提案もあったが、入居者に馴染みのある現状を維持している。職員の対応は穏かで、居室入り口に暖簾をかけ、入居者の動向を把握しつつプライバシーにも配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手伝いや軽作業、入浴など、問いかけし、自己決定出来るよう心がけている。ケアプランの中にご家族、本人様の希望をいれている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせたり、その方のペースに合わせた食事時間、入浴日などしている。レクリエーション等も参加の意思を確認している。家族と外出されたり、自室にテレビを希望する方はセットされ観られている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など、入浴時、外出時など職員と一緒に選んでいる。又、誕生月などは家族の方が、洋服の贈り物をして下さり、お化粧などして誕生会に参加している。お化粧品などは、家族や職員が準備している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会より利用者様の嗜好調査など行い取り入れている。食事の準備や配膳、片付けなど職員と一緒に行って1いる。	隣接の介護施設の厨房で、昼食や夕食を作っているが、ホームでおやつ作りを楽しんだり、夕涼み会で希望のノンアルコールビールを楽しんだり、外食を支援している。職員は声掛けや見守り、食事介助で、入居者各々のペースで全量摂取できるように支援している。下げ膳を自らする入居者も多く、同じ形の食器を重ねて、持ち運びしやすいように片づける男性入居者もあった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう支援し記録している。水分等摂取量の少ない方は、ゼリーなどにしたり、刻み、ミキサーなど一人ひとりのにあった食事形態にし、支援をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、介助の必要な方や見守り、声かけ等行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、昼間、夜間など、声かけなどを行い失敗を防ぎ、自立できるよう支援している	夜間頻尿の入居者もあり、手引きでトイレに誘導したり、ベットサイドのポータブルトイレでの排泄を支援している。夜間はリハビリパンツ、日中は布パンツと使い分けを支援している。各ユニットに設置された3ヶ所のトイレはトイレと大きく掲示され、場所の見当を促している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保、食べ物、体操や運動などの確保。又、看護師との連携をとりながら、便秘薬の調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方にあっつた入浴を行う。体調不良などは清拭や、足浴等行っている。畑作業などの発汗時なども行う。	1日おきに、また週2～3回の入浴を随時支援している。入浴を拒否するが、お湯に浸かると気持ち良いと話す入居者もあり、洗濯物干し等で声かけを工夫している。ホームの入浴だけではなく、家族の協力を得て、外泊時に自宅で入浴している入居者もあり、入居者に応じた支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠れないときなどは一緒にコミュニケーションをとったり、昼間の日光浴や散歩など行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。薬情報としていつでも確認できるようにしており、薬の変更時などは朝礼などで報告、連絡を行う。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の情報や、センター方式を利用しながら、できることや役割等持っていただき、張り合いや、喜びなど楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩など希望する方は出かけるよう支援している又、自宅などへ帰る時は家族の協力を得て行ったり、遠くへは外出行事として出かけている。	レクリエーション担当職員が設置されている。地域の名所に出かけたり、家族とショッピングセンターで待ち合わせ、入居者と買い物や食事を楽しめるように支援している。入居者の希望で、個別に外出を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物行事などで、出来る方は、ご自分で支払えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは出来るよう支援している。又遠くにはなれたお子さんに月便り等お出しする時などお手紙など入れてお出しする。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外光や、外気温との調整に心がげている。玄関や洗面所などには季節の花等を置き、壁には季節に合った利用者様の手作りのものや、習字が飾っている。	玄関周囲に季節の花や桜の木が植えられ、季節の移り変わりを楽しんでいる。今年も、掘ったサツマイモでおやつ作りが企画されている。玄関を中心にして左右に各ユニットがあり、ユニット間の仕切りをはずして、合同で体操を楽しんだりしている。加湿器等や換気で空調を管理している。入居者は共用空間に設置された椅子やソファで、寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席に座られたり、ソファーで他の方と談笑されたり、テレビを見られたりされている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの箪笥や時計、写真、ラジオなど馴染みの物を持ち込まれたり、畳みを敷き居心地良く過ごして頂いている。	居室入口に名前を掲示し、ユニット入口と同じ暖簾をかけている居室もあり、入居者のプライバシーを大切にしている。タンスや日用品が持ちこまれ、家族写真が飾られた居室が多い。日中もカーテンをひいている入居者もあり、それぞれ個別性がある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを大きく表したり、自室に名前の表札を付けたり、暖簾をしたり解り易くしている。又、大きな日めくりや、カレンダー、季節の花、飾り物などで季節を感じて頂けるよう支援している。		